CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS
宗教センターだより

幼稚園より

アドヴェント礼拝
11/24(金) 9:40〜
12/1(金) 9:40〜
12/8(金) 9:40〜
保護者会クリスマス礼拝
12/5(火) 10:00〜
クリスマス礼拝
12/15(金) 9:40〜
3学期始業礼拝
2018年1/10(火) 9:40〜
聖書を学ぶ会
2/5(月) 9:30〜
卒園礼拝（年長児）
3/8(木)
終業礼拝
3/14(水)
卒園式
3/15(木) 10:00〜

（教諭　矢部 尚子）

初等部より

感謝祭礼拝
11/21(火) 初等部米山記念礼拝堂
保護者のためのクリスマス礼拝
12/8(金) 初等部米山記念礼拝堂
アドヴェント・コンサート
12/8(金) 18:30開演 初等部米山記念礼拝堂 入場無料
オルガン 小林 英之　トランペット 山本 英助、古田 俊博　ホルン 井手 詩朗
トロンボーン 栗田 雅勝　チューバ 岩井 英二
クリスマス讃美礼拝
12/20(水) 15:00〜17:30 青山学院講堂
初等部チャペルコンサート
2018年2/22(木) 15:40〜16:30 初等部米山記念礼拝堂 ハンドベルクワイア、聖歌隊、トランペット・鼓隊
卒業礼拝
3/7(水) 初等部米山記念礼拝堂
説教　小澤 淳一（初等部宗教主任）
6年生を送る礼拝
3/12(月) 初等部米山記念礼拝堂

（宗教主任　小澤 淳一）

中等部より

クリスマス礼拝
12/19(火) 14:00〜15:30 青山学院講堂
特別養護老人ホーム
救世軍恵泉ホーム訪問
2018年1/13(土) 14:30〜15:30
保護者聖書の会
（礼拝と聖書の学びと分かち合いの会）
1/24(水) 2/28(水) 10:50〜12:00 多目的室

（宗教主任　浅原 一泰）

表紙写真
大学コンテンポラリー礼拝

宗教改革500年――私たちはどう生きるか

徳善 義和
（日本ルーテル神学校名誉教授）

宗教改革とは

世界史で宗教改革のことを学んだ人は多いと思う。歴史の一齣として学校で学んだらおしまいでいいのだろうか。世界中のキリスト教会がカトリック教会を含めて、今年はこれを憶えている。一人の真剣な修道士だったマルティン・ルターが聖書に学んで、当時のカトリック教会全体に、キリスト教信仰の原点に帰ることを呼び掛けたのだった。彼のいた戒律厳守の修道院の修業も、当時の大学の神学も人間第一、神はそれを認めるだけだと考えていた。甚だしかったのは贖宥状（いわゆる免罪符）を買えば、神はすべてを赦すという大々的な「販売」行為だった。ルターはこうしたあり方に反対し、詩編とローマ書を始めとして、聖書の教えに立ち、キリストにおける神の恵みのみが人間を救い、人間は信仰においてこれを受け入れるのだと、当時のヨーロッパの全教会に訴えた。しかし教会の主流も帝国の支配者も大多数がこれに反対し、ルターは教会から破門、帝国から「追放刑」を言い渡された。だが、聖書の真理が勝つ。ヨーロッパのドイツからほぼ北半分がルターに賛同し、ルーテル教会と呼ばれるようになって今に至っている。

どう変わりつつあるのか

対立は長く続いたが、聖書が説く真理が説得力をもつ。20世紀半ばの第二バチカン公会議以来、カトリック教会は大きく変わりつつある。ラテン語の礼拝は民衆の言語で行われるようになり、ラテン語訳だけだった公認聖書は各国語で、しかもプロテスタントとの共同訳で読むことができる。合同の礼拝も行われる。去年の秋、スウェーデンのルンドで、教皇とルーテル世界連盟の議長が共に、信仰の交わりの深まりを祈った。今年も日本では長崎で宗教改革500年の合同礼拝をもつ。こうした流れは私とどう関わるのだろうか。

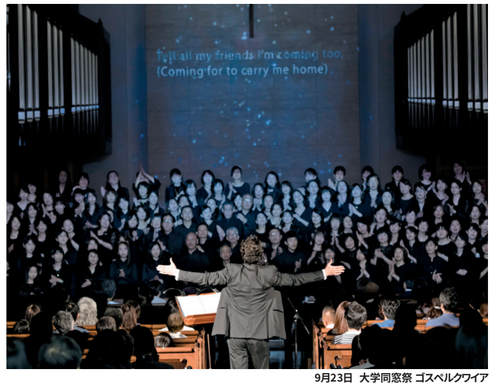
今私たちの間での改革

キリスト教の諸教会がルターの問い掛けに500年経って、改めて応えようとしている。これは私たちとどう関わるのか。キリスト者ならば、教会のこの革新のただ中に、信仰をもって生き、関わっていくのだ。キリスト者でなくても、人間としての生き方を自ら内にも外にも深め、生かしていく歩みへの呼び掛けを心に聴いていいのではないだろうか。

徳善 義和著
『マルティン・ルター
―― ことばに生きた改革者』

ゴスペルを通じて感動体験
―Gospel Workshopに参加して

飯澤 香・レイラ
（保護者・初等部4年生）



9月23日　大学同窓祭 ゴスペルクワイア

「もう一度、大学同窓祭ゴスペルステージの時間に戻りたい……」。ここ数日、そんなことばかり考えています。

ゴスペルのワークショップがあるというチラシを娘が持って帰って来た時、「なんとなくゴスペルやってみたいから、最後は親子で口パクになっちゃってもいいや〜」と娘と2人分の名前を書いて申し込んだ時の私は「その他大勢、なんとなく」という感覚でした。ところが1回目のレッスン終了後には「ワークショップに申し込んだ自分の直感に拍手！」「神様はすごい体験を私達に与えて下さった！」など、プラスの感情がどんどん湧き上がってきたのを覚えています。

約3ヶ月、11回に渡るワークショップは毎回、礼拝堂の十字架の前に置かれたグランドピアノに座る「我らが師匠NOBU（鬼無宣寿）」さんが祈りの後、歌うように語りながらスタート。でも穏やかなピアノの音とは裏腹に冒頭から「喉の奥を開いて、裏声にならずに高い声を出し、曲のイメージ通りに声を出し続けるためのトレーニング」という感じで素人の域を超えた厳しいレッスン時間が続きました。でも、場内からは不思議とマイナスの気は感じられず、気づくと「終わりのお祈りの時間」という感じでした。

途中NOBUさんが与えてくれる世界観を体現できない自分に嫌気が差しましたが、そんな時「一人ひとり大切な役割があり一人でも合ってないと意味がない、皆で創り上げるもの」というコメントを下さり、「One of them」だった私にも「パートを歌い切る責任感」のようなものが芽生えてきたのを感じました。

レッスン中は「イイね」なんて言葉は一切NOBUさんの口からは出ませんでしたが（笑）、NOBUさんの一言でメンバーの声色が急に色づくのを何度も体感し、知らぬ間に「曲の世界観を表現する演者」になっていました。そして半ば強引に参加させた小4の娘、「先生の言った言葉の意味、わかるかな」と心配になったのですが、学校生活の中で当たり前のように神がいて礼拝の時間を持つ彼女は、もしかしたら私より曲の意味や背景が見えていたのかもしれません。動じず、堂々と歌う姿を横目で見ながらたくましくもあり、うらやましくも思えました。

本番直前の練習の時にNOBUさんが「神様が筋書きをすでにお決めになっているので何も心配する必要がない」とおっしゃったのを聞いてスーッと落ち着き、迷いなくステージに立てたのも自分としてはびっくりでした。

貴重な貴重な経験をさせて下さったスタッフの皆様、NOBU先生には感謝してもしきれません。次回チャンスがありましたら是非皆さん、参加してみて下さい！　私たちも絶対参加します！

シリーズ 地の塩、世の光　file 26　◉ 各界で「地の塩、世の光」として活躍するクリスチャン

**キリストと結ばれる人はだれでも、
新しく創造された者なのです。
古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。**

5:17 Corinthians II
コリントの信徒への手紙　二　第5章17節

鈴木 啓之
シロアムキリスト教会 牧師
NPO法人人生やりなおし道場 理事長
府中刑務所教誨師

誰だって人生やり直せる！

17歳でやくざの世界に飛び込み欲望のままに生きた人生の顛末は悲惨なものだった。いくつもの組織に命を狙われ追われる日々、守るべき家族を守ることもできず置き去りにしてきた自分への罪責感と罪悪感。それらすべてが私の生きる力を奪っていった。「死ねば楽になれるぞ」そんな声が聞こえた。その声に促されるように「拳銃」を握る。死ねると思った。死ねるはずだった。しかし「拳銃」を握る手は震え、死ぬことなどできなかった。まるで生きた屍、それが自分の姿だった。「やり直したい、どうすればやり直せる？！　誰か助けてくれ」初めて心の声を言葉にした。手に職もなく学歴もない、あってはならない前科と刺青、無くてはならない両手の小指を無くした人間、そんな人間が人生のやり直し？！　できるはずがない！　現実に耐えられず悪夢にうなされた不安な日々。気がつけば教会に逃げ込んでいた。

藁にもすがる思いで助けを求めた教会の牧師が聖書を開き私に語ってくれた。「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。」（マタイ 11：28）

不思議と素直に受け入れられた。導かれるままに悔い改めの祈りと信仰告白！　もう一度私にチャンスを下さい！と泣きながら叫んでいた。

「キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。」（コリント 二 5：17）
聖書の言葉は私を励まし力づける3つのやり直すための鍵を教えてくれた。

1. チャンスはある ――「救われた者に与えていただける特権」

すべてを無くしても神様が共にいて助けてくださるなら人生のやり直しは可能となる。私は教会に逃げ込んだ時、ここに人生のセカンドチャンスがあるなどと考えてもいなかった。しかし救いの恵みにあずかれたことでチャンスの入口に立たせて頂けた。

2. チェンジが鍵 ――「チャンスを掴むための秘訣は価値観の転換にある」

人にはできないことでも神様にはできるという信仰に立つとき 奇跡は始まる！　チャンスは無いのではなく 視点と観点を変えることで気付くことがある。自分が気付いていないことを誰かが気付いているなら私にも可能性はある。「チェンジオブマインド」

3. チャレンジせよ ――「Restart新たなる出発」

やり直せる材料が何もないように思えても人生のやり直しはできる！　無から有を生み出すことのできる神様が共にいて助けて下さる人生には無限の可能性がある。

結び

私は人生やり直しの新たな一歩を踏み出した。前途多難な一歩だが希望に満ちた一歩であった。追われていた組織に２度拉致され殺されかねない状況に立たされた時にも神様が共にいて下さると信じて逃げることなく問題に立ち向かい対処できた。立ちはだかる壁をひとつずつ打ち破り、壊れていた家庭も神様と家族の許しのもとに回復できた。そして何よりも神様はこんな私を伝道者として立たせて下さり今日に至るまで用いてくださった。私は声を大にしてこれからも語り続ける。「誰だって人生やり直せる！」と。

The Salt of the Earth, The Light of the World

相良 昌彦
（高等部宗教主任）

相　談

❶ この前、ひいおばあちゃまが亡くなりました。どこへ行ったんですか？
❷ 人は亡くなるとどうなりますか？
❸ 天国ってどんな感じですか？
（初等部3年女子児童）

❶ 神様に見守られるところ、天国ですよ。

ひいおばあちゃまを亡くされたこと、とても悲しいですね。キリスト教では、「神さまのみもとにおおくりする」ということばがあります。人はみんな生まれて、家族や友だちと一緒にすごします。そして亡くなります。亡くなると、もう家や学校で一緒にすごすことはなくなりますが、今、ひいおばあちゃまは、神さまの腕に抱かれて、神さまに大切にされています。

私たちは、大事な人や大好きな人が亡くなると悲しい気持ちになります。それは神さまが、私たちに命をくださって、私たちと大事な人との間に、たくさんの愛があるように見守ってくださっているからです。大事な人と出会えるのは、神さまのおかげなのです。

❷ 私たちには希望があります。それは、私たちのために十字架にかかって亡くなられたイエスさまが復活されたことです。復活のイエスさまと40日間いっしょにすごしたお弟子さんたちも、神さまのところへと戻られた大好きなイエスさまにもう一度お会いすることができます。私たちはどこにいても、たとえ亡くなっても、もう一度神さまの前に集められます。それはきっと、うれしい再会となるでしょう。

❸ 神さまは、どんな小さな一人ひとりも、大切にしてくださいます。神さまのみ心に守られて安心できるところ。私たちがイエスさまに、大事な、大好きだった人に、もう一度笑顔で会えるところ。それが天国です。

ひいおばあちゃまも、私たちも、かならず天国で、イエスさまの笑顔と神さまのみ心に迎えられます。希望にみちて、毎日を過ごしましょう。

CHRISTIAN BOOKS & CDs　シリーズ・キリスト教関連メディア紹介

『みんなでうたうクリスマス』

（絵：やなせ たかし　文：晴佐久 昌秀）
女子パウロ会

浅賀 満理子
初等部教諭

この本の作者、晴佐久昌秀氏はローマ・カトリック教会の神父をしています。実はわたしが小さいときに家族で通っていた教会の神父さまでもありました。当時から司祭としての働きの他にも詩を書いたり、映画の評論をしたりと、各方面で活躍されていたことを覚えています。この本はそんな晴佐久神父の最初の出版作品です。最初の‥と書いたのは晴佐久神父がこの本以降、わかりやすい言葉でユーモアにみちている短編集や詩集など何冊も印象に残る本を出版されているからです。どの本も共通して神様の愛が力強く語られています。

「みんなでうたうクリスマス」の表紙をごらんください。いかがですか？ アンパンマンでおなじみの「やなせたかし」さんによる、かわいらしいイエス様のお顔が大きく描かれています。しかし最初にこの表紙の絵を見た晴佐久神父は「この絵のイエス様は、自分のイメージ通りではない‥。」と思ったと、後のお説教の中で語っています。いわゆる「かいばおけに寝ているイエス様」の姿を思い浮かべていたそうですが、「やなせ」さんの描いた絵はイエスさまが大地から太陽のように顔をだした大きな顔。聖なるイエスキリスト、というよりも、あまりにも可愛らしい赤ちゃんのイエスさまでした。

しかし、「やなせ」さんはこのイエスさまのお顔の表紙に強くこだわったそうです。後になって晴佐久神父は、この絵のイエス様こそが「どこまでも優しくて圧倒的に大きくて、すべてを超越する、救い主だ」と気づいたと語っています。確かに圧倒的なイエス様の存在感が印象に残ります。小さくても圧倒的な存在であるイエス様の姿に「やなせ」さんはこだわったのかもしれません。

イエス様は小さな赤ちゃんとしてこの世に生まれてきてくださり、私たち人間と同じようにお育ちになりました。イエス様の御降誕が書かれたこの本は、すべて歌になっています。やはり神父であり作曲家でもある塩田泉氏がすてきなメロディーをつけました。音楽が入ると絵本の世界観がまた違ったものになります。わたしの通っていた教会ではこの絵本と音楽を使って降誕劇を行っていました。

昔も今も、クリスマスが近づくと多くのミッションスクールや教会学校でイエスさまのご降誕を聖劇でお祝いします。初等部でも60年以上前からクリスマス讃美礼拝として音楽と一体となったページェントをおささげしています。今年のクリスマスも皆でよき準備をし、イエスさまの誕生をお祝いいたしましょう。

編集後記

宗教改革500年の大きな節目に立ち会えることに歴史的な重みを感じているこの頃です。クリスマス。神さまが、独り子イエスさまをこの世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためでした。今号のウエスレーホールニュースは、イエスさまのご誕生を祝うクリスマスにふさわしく、救い主イエスさまの確信に満ちています。心を開いてお迎えしたいものです。

（初等部教諭　野呂 智子）

Wesley Hall News　第125号
2017年11月20日発行

発行 青山学院宗教センター 学院宗教部長 大島 力
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537（ダイヤルイン）
〈URL〉http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html
〈E-mail〉agcac@aoyamagakuin.jp
編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 株式会社 万全社